

Home

長洲町に生まれて

この町で生まれ、この町で育ち、そして今、古里・長洲町を思う……。このコーナーでは、さまざまな分野で活躍する長洲町出身の人を紹介します。



誰よりもウィルチェアーラグビーに対する気持ちは強く、激しいプレーをする島川さん

リオ・パラリンピック
ウィルチェアーラグビー日本代表

島川 慎一さん(41才)(向野区出身)

「応援してくれる皆さんへの 恩返しのためにメダルを」

プロフィール

しまかわ しんいち 1975年1月29日生まれ。向野区出身。六栄小、腹栄中学校卒業。21歳時に事故で下半身不随となってしまう。友人の誘いからウィルチェアーラグビーをはじめ、すぐに才能が開花し、ウィルチェアーラグビー日本代表に選出。今回のリオ・パラリンピックで4回目の出場となる。

「メダルを獲得して支えてくれた人に恩返ししたい」。そう話す島川慎一さんはリオ・パラリンピックにウィルチェアーラグビー日本代表として出場する中心選手だ。

島川さんは、20年前、不慮の事故で頸椎損傷となり、左手の握力の低下と下半身付随という重症を負ってしまった。「今まで当たり前のように使っていた手や足が思うように動かない」。21歳の若さでこの現実を受け入れるにはあまりにもつらいものがあつた。そのような中、同じ境遇をもっている友人から突然ウィルチェアーラグビーを勧められた。

島川さんは小さい頃、運動が好きではなかった。しかし、「何かを変えたい。このままではいけない」その一心でウィルチェアーラグビーを始めることにした。

ウィルチェアーラグビーとは、四肢に麻痺のある障害者が車いすで競技する障害者スポーツである。島川さんはウィルチェアーラグビーのスピード感と迫力に夢中になった。自他ともに認める「負けず嫌い」の島川さんは、誰よりも練習し、始めて4年後に才能が開花し、日本代表に選出された。

今回のリオ・パラリンピックは島川さん自身4回目の出場となる。現在、ウィルチェアーラグビー日本代表の世界ランキングは3位。十分にメダルを獲得できる実力があがり期待が高まる。

島川さんは昨年、5年ぶりに同窓会に出席するため故郷熊本に帰省した。「やっぱり生まれ育った長洲町が一番ですね。この町の魅力は自然豊かな所と食べ物がおいしいところ。それと、離れていていても、すぐに昔のように話すことが出来る「仲間」がいることですね」と話す島川さん。故郷に帰れば、日本代表の選手としてではなく、同級生の島川慎一として接してくれる友人がいる。あらためて、故郷長洲町のよさに触れてリオ・パラリンピックに向けての闘争心もわいてきた。そんな長洲町の皆さんに応援してもらいたい。障害があってもこれだけやれるんだということを示したい。

「夢は東京パラリンピックで活躍する姿を子どもに見せたい」と話す島川さん。

これから、日本の代表としてだけでなく、長洲町の誇りを持って戦う島川さんを応援したい。